

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成27年度第4回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	平成27年11月2日（月）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター会議室1
出席委員の氏名 又は人数	直田春夫会長、岸本信子委員、村上均委員、篠田重一委員、眞鍋宣征委員、大前道廣委員、徳丸徹委員、米田育子委員、清水賢一委員、小林茂夫委員、吉川勝子委員、藤井久美委員 計12名
欠席委員の氏名 又は人数	黒崎晃史委員
出席職員の職・氏名 又は人数	都市経営部長 大前悟、まちづくり課長 柳田みどり、まちづくり課長補佐 池田正人、まちづくり課主任 和田裕行 計4名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
議題又は協議事項	1 協議等 (1) 「地域自治協議会」の啓発について (2) 答申書（案）について (3) 「市民提案型まちづくり事業補助金」及び「地区まちづくり実践補助金」の在り方について 2 その他
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
事務局	<p>1 協議等</p> <p>(1) 「地域自治協議会」の啓発について</p> <p>8月31日から始まった8地区のまちかどミーティングに多くの出席をいただきお礼を申し上げます。審議会委員にはそれぞれ多数地区に御参加をいただき、また朗読劇まちづくり井戸端会議の実施や、御意見をいただくなど本当に会の運営において助けとなった。参加者の集計表にあるように、多くの方にお越しいただいた。平成24年度に行った自治基本条例制定時のまちかどミーティングを上回る参加人数となった。</p>
会長	<p>まちかどミーティングに多く御参加いただき私からもお礼を</p>

委員	<p>申し上げる。地域自治協議会の啓発については後ほど話すとして、まずまちかどミーティングの感想や意見を伺いたい。</p> <p>私は自地区を含め4地区に参加させてもらった。それぞれの会で良い意見も出て、前向きな姿勢も感じられたように思う。その中で黒田庄地区においては今ある黒田庄地区まちづくり住民会議というまちづくり組織の解釈を大きくする中で、区長会や地区住民自体がしっかりと理解をしていかなければというニュアンスがあった。野村地区についても前向きな意見が多く、安心な元気のある地域づくりが必要だとそれぞれが感じられたように思う。また、一括交付金についていくらになるのかといった意見もあり、具体的に知りたいというような意見もあった。とりわけ窓口の一本化についての必要性が各地区で何となくではあるが浸透させることができたのではないかと思う。</p>
委員	<p>いくつかの地区を回り全般的に感じたのは、区長が忙しく、自分の仕事、活動を持っており、目の前のことをやっていくのが精いっぱいということだ。地域自治協議会について、モデル、例などを示さないと具体的に議論も進まないかなと感じた。また、市長と直接話ができる機会であるだけに、要望的な話をされる方も多かったように思う。</p>
委員	<p>西脇区においては、前区長が任期途中で亡くなられたということもあり、新しい区長が現在いろいろと奮闘されているが、積極的な意見はあまり聞くことが出来なかった。西脇区は特に高齢化率も上がってきており、これから大変だろうと思うが、住民みんなで助け合いながら十分やっていけると思う。</p>
委員	<p>地区によって地域自治協議会について捉え方が違い、温度差もあるように感じた。黒田庄地区においては大変活発に議論され、地域自治協議会についての質問や意見に終始していた。やはり今後は、いかに地域自治協議会の重要性を浸透させていくかということが大切だと思う。全く新しい組織をつくるのではなく、今あるまちづくり協議会のなかを一つずつ変えていけば良いということをもっと全面的に主張していけば良いと思う。</p> <p>私は2地区で参加させてもらったが、どちらも特に反対意見や否定的な意見は出なかったものの、具体的に今までとどこが違うのか、またすみわけ、切り分けはどのレベルでしていくのかという意見が多かったように思う。また、参加している人は、各地区の区長や役員、年配の方などがほとんどで、若い方の参加が少なかったように思う。</p>

委員	<p>各地区へ行って、女性の参加が少ないという印象を受けた。各地区で役員は男性が多いので仕方がないと思うが、もう少し女性に参加してほしいと思った。また、各地区の議論で、市長への要望が多く、地域自治協議会についての話は進みにくかったように思う。日野地区である区長が、地域自治協議会については今の段階から考えていくべきことだとおっしゃっていた。今はピンとこないが、10年、20年先の、自分の子ども達の時代に残していくために取り組んでいくべきことだという意見があった。そのような意見を聞き、徐々にソフトに進めていくことも良いかと思った</p>
委員	<p>地区によって意見も様々で、各地区の特色が意見のなかにも現れていたように思う。どの地区でもそうだが、区長が忙しくされており、そのうえまだ何かが増えるのではという恐れを持っておられるという感じがした。私は地域自治協議会を進めていくのに、今あるまちづくり協議会を発展的に捉えて移行していくのが簡単そうかなと最初は思っていたが、いろいろと議論をし、話を聞いているうちに、そのまま発展をさせていくようなものではないと考えるようになった。どこかがモデル地区になってやっていかないことには、いつまでたっても進まないという気がする。黒田庄地区、比延地区の可能性が一番高いように思う。</p>
委員	<p>私は全地区に参加をさせてもらった。始めに開催された地区では、我々が意見を押し付けるのはどうかと思っていたので、意見を言わずにいたが、途中からは、審議会委員として、市民として、この制度を提案することの想いを言わせてもらってきた。黒田庄地区においては地元の医療関係の企業の地域担当の方が参加され、地域の福祉についての提案をされていた。野村地区では人口減少について少し他地区と違い危機感は薄いように思うが、今の形で役員中心にしていくよりも、若い方、女性などを幅広く取り込んで地域づくりをされてはどうかという意見を言わせてもらった。ただ、やはり今の段階では見通しがつかないので、やはり熱心な地域からモデル地区をつくっていかないことには、いつまでたっても進められないように思う。また、現実に一括交付金、窓口の一本化ということをおきながら、具体的に交付金の額など明示できない状態であるので、早急に具体的な案をつくっていくべきかと思う。</p>
委員	<p>私は6地区に参加をさせてもらったが、やはり地区によって多少温度差があるように感じた。前向きな意見の出る地区もあれば、意見が出ず要望会のようになる地区もあり、行政の押し</p>

委員	<p>付けではないかという意見もあった。どの地区でも参加者が動員のような感じになってしまったのが少し残念だ。来て説明を聞き、話を聞いてもらえれば少しずつでもわかってもらえると思うが、この感じであれば浸透させていくのは少し時間がかかるかと思う。</p>
委員	<p>やはり役員などが中心となった会になってしまったので少し残念だ。私も近所の方などに呼びかけていくべきだったかと思う。ただ、内容はいろいろであったが、どの地区でも積極的に発言があり、時間いっぱいまで使われていることは本当に良かったと思う。市民が発言をし、市長をはじめとした行政の方々が丁寧に説明をされ、やり取りをしながら共通の認識を深めていくということから始めていき、まだ初歩的な段階かもしれないが、意味のあるものになったのではないかと思う。</p>
委員	<p>どこの地区でも底流で流れていることとして、行政にやってもらおうという体質があるように感じた。そのようななかで組織として成熟し、自分たちでやりきるということについて、なかなかイメージがしにくいかと思う。やはりモデル地区があり、検証を重ね、それを叩き台にして他の地区が進めていくことで、初めてそれぞれの地域のなかで考えていくことができるかと思う。モデル地区に手を挙げる地区に対しては手厚く支援をし、試行してもらおうことで、他の地区にも浸透させていくことが、一番わかりやすく、一番の早道なのかと思う。各地区を回り、委員の皆さんと朗読劇を重ねていくことによって、非常に連帯感ができ、徐々に私自身のなかで意識が育っているように思う。皆さんと一緒に議論や活動をできて良かったと思っている。</p>
会長	<p>参加者の偏りなどについては地域自治協議会というよりはまちかどミーティングの設計方法のところになるので、今回を参考にまた次年度以降どうしていくか考えて一般の方の参加を伸ばしていただきたい。各地区で設立に向けて議論される場合は、一般の方も参加してもらわなければ、役員の方々の意見にとどまってしまうことになるので、広げてもらいたいと思う。モデル地区については、新しい組織をつくるとなればイメージがしにくいためなかなか手を挙げることは難しいと思うが、何かある程度の形が見えれば理解も進み受け入れられやすいと思う。基本的には地域の方が主になって進めていくことではあるが、行政も側面、後方からサポートをし、地域が動きやすい環境づくりをしていくことが重要だ。行政は一步先を行く環境整備を意識してもらいたいと思う。すみわけや役割分担などの具</p>

	<p>体的な所については、先進事例などを見ながらイメージを持ってもらい、それを参考にしながら地域独自の活動に結び付けてもらえばよい。自治基本条例にあるように、公共的な性格を多分に持つ団体であるため、参加する、しないに関わらず地域の全住民にサービスなどを提供することとなるし、全ての住民に参加する権利がある。ただ、まちづくり協議会があるので、一からの創設ということではなく、ある程度のノウハウ、活動実績等があり、優位に働くことは間違いない。進み始めれば、案外うまくいくと思う。地域のあらゆる団体、組織、企業などをまとめ、地域の総力を集め、互いが支え合うような仕組みをどうつくるかだと思う。区長など特定の人に負担が偏らないような仕組みづくりも必要で、知恵の絞りどころだと思う。それぞれの地区に合う形で進めてもらうことになるが、そのためにはやはり事務局職員の能力が必要不可欠だと思う。</p>
事務局	<p>モデル地区を立ち上げ検証をしていくために、さらに市民に対して地域自治協議会の制度を導入する目的や効果などについてわかりやすく説明していく必要があるということに改めて感じている。そこで委員の皆さんにまちかどミーティングにおいても御協力をいただいた朗読劇について動画撮影をさせてもらい、今後必要な機会に上映をすることで、市民に理解を深めてもらいたい。御了解をいただけるのであれば、どのように進めていくのが良いか御意見をいただきたい。</p>
会長	<p>朗読劇についてはまちかどミーティングでも御披露いただき、市民の皆さんにとっても、行政が伝えるよりも効果的に伝わったのではないかと思う。これから先も啓発や理解を深めるために使ってもらいたい、毎回委員の皆さんに出席してもらうことも難しいと思うのでとても良い提案だと思う。もちろんその場で演じる朗読劇も続けていただきたいので、それにあわせて動画を利用してもらえればと思う。</p>
委員	<p>朗読劇の内容について、役柄のAが最終はまとめるが、序盤は同じくAが参画と協働について分からないような内容で始まっている。その点で辻褃が合わない部分もあるので少し工夫が必要かと思う。また、実際にやっていて見ている人の反応が分からなかったが、質問や感想なども特になかったので、どこまで参考になっているのかと疑問に思うところもある。</p>
会長	<p>シナリオについては工夫をして自然になるようにまとめてもらえば良いと思う。逆に演出として初めはわからない装いで最後にパッと変わるというのも面白いかもしれない。また、まちかどミーティングでの朗読劇は、参画と協働のガイドラインの</p>

	<p>説明のためであったので、それに対して見ている皆さんが意見を言うということもなかったのではないかと思う。あまり固く考えなくても良いかと思う。また、委員の皆さん以外で朗読劇をやってみたいという方がいらっしゃればチームをつくってやってもらっても面白いかと思う。</p>
委員	<p>審議会としても市民に浸透をさせていくためにいろいろと試みるなかで、動画など利用して啓発をしていくことも必要だと思う。</p>
委員	<p>動画を上映することは、何かの説明をする前の前置きとしてする場合などではとても良いと思う。取扱う内容が難しいだけに、もう少し柔らかく、例えば笑いが出るようなことも盛り込んでも良いかと思う。バージョンを変えて、より現実味のあるところで家族の会話編などがあっても面白いかと思う。今の内容でも字幕スーパーなどが出れば、さらに良い動画にできると思う。</p>
委員	<p>地域の高校生などにやってもらうのも良いと思う。シナリオなども考えてもらい、好きにしてもらえば、我々にはない感性でまた良いものができるように思う。</p>
会長	<p>良いアイデアがたくさん出てきたように思う。また別途企画会議などを開いて進めればどうかと思う。皆さんにも前向きに御検討いただきたいと思う。</p>
委員	<p>今回の朗読劇は参画と協働のまちづくりガイドラインの啓発についてであったが、また別のテーマで、例えば地域自治協議会についてのことや、少子高齢化社会に向けてなどで井戸端会議をしてはどうかと思う。</p>
事務局	<p>これまでいただいた御意見のなかで地域自治協議会を説明するような動画があれば啓発をしやすいのではないかという意見があった。他の先進地でもそのような動画を作成され啓発されている自治体もある。今回豊中市から会長の薦めもあり拝借することができたので皆さんに御覧いただき、また御意見を伺いたい。</p>
委員	<p>○動画上映 動画のなかで活動を取り上げられていた地域自治組織は、都会のなかにもありながら小学校区で活動しており、校長をはじめ色んな人が参加して、何より子どもが多く参加していたのがとても印象的で良いことだと思った。子どもが多く参加すれば、その保護者も参加し、結果として多くの方でまちづくりに関わっていくという流れができてくると思う。</p>
事務局	<p>この動画はしばらくお借りしておくので、もう一度ゆっくり</p>

<p>会 長</p>	<p>観たいという方があれば事務局へ言ってもらえれば貸し出しをする。</p> <p>御覧いただいたような動画を西脇市で作成するのは、今は少し難しいかもしれないので、まずは朗読劇の動画作成を調整して、地域自治組織として活動をされる地区ができてくれば、取材などを重ね、このような動画も作成できればよいかと思う。</p>
<p>会 長</p> <p>事 務 局</p> <p>会 長</p>	<p>(2) 答申書(案)について</p> <p>(3) 「市民提案型まちづくり事業補助金」及び「地区まちづくり実践補助金」の在り方について</p> <p>答申書案についてと、両補助金の在り方については関連性もあるので、協議事項2及び3は一括で審議をさせてもらう。まずは事務局から説明等をお願いする。</p> <p>事務局から資料に沿って、答申書案について説明。続いてまちづくり補助金の在り方について11月6日に実施される後期のまちづくり活動審査部会で、部会委員に両補助金の在り方について詳しく審議してもらうことを提案し、それを踏まえたうえで、近隣市町の補助制度の紹介や、利用団体を対象に行ったアンケート結果などを基に両補助金の在り方について説明。</p> <p>答申書については今見ていただいた通りの内容で大筋は良いかと思う。答申書の最後の項目である市民提案型まちづくり事業補助金の今後の在り方については、11月6日に行われるまちづくり活動審査部会後期審査会の審査後、部会で御審議をいただき、御報告をいただいて、その内容で答申書に反映させていただければと思う。近隣市町の制度と比べても西脇市の市民活動支援事業は決して少ない金額でもなく、手続きも煩雑過ぎず、恵まれた内容であるということをも市民に理解してもらうことも必要かと思う。利用年限についても、採択できる限度額は決まっており、どこかが採択されれば一方で採択されないというケースも考えられる。そのため、新しい利用団体、活動を応援していくためにも必要なことかと思う。どうしても継続していく必要があるようなものについては、行政の施策としてやっていくべきとも考えられるため、市民提案型まちづくり事業から形を変えて続けていくように考えてもらうべきかと思う。3年間ではなかなか財源面で自立する力が付かないという声も分からなくはないが、新たな団体の新たな課題への挑戦や、活動の道を開く足掛かりになるべき役割をこの事業は持っているため、そのことも念頭に置いて御審議をいただければと思う。</p> <p>地区まちづくり実践補助事業については、まず地区ごとで補助金の額の隔たりが大きいことについて懸念があると委員から</p>

事務局	<p>質問があったが、一括交付金化する場合にこれまでの実績を踏まえて補助額の積算に努めるということで事務局が回答されている。このことについて事務局から説明をお願いする。</p>
会長	<p>地区まちづくり実践補助金については御指摘のとおり地区によって補助額にばらつきがある。現状の補助額を面積割りや人口割りなどに即時変えてしまうと、これまで行っていた活動ができなくなるという地区も出てくる。そのため、これまでどの地区も10年以上の活動実績があるので、それに見合うような補助金を残し、一括交付金として含めて考えていきたい。</p>
委員長	<p>答申では一括交付金化の細かい制度設計までは踏み込めないで、地域内、行政内の調整なども含め様々なことを考えたうえで具体的な制度をつくるとして、考え方としてこれまでの実績などを参考に積算していく事は必要かと思う。これまでの活動を考慮して行う積算と別に、税金が還元される意味合いも考慮して人口割りなどで積算する分を合わせていけば良いかと思う。</p>
委員	<p>皆さんにいただいた御意見を反映した答申書案を基本に、事務的に文言を変更する場合はあるが、基本的にこの形で答申書を市へ提出したいと思う。</p>
事務局	<p>補助金については、毎年申請をされて審査を行うという流れになっていると思うが、これまでに採択されなかったような実績はあるのか。あるのであればそれはなぜだったのかお聞きしたい。</p>
会長	<p>これまで市民提案型まちづくり事業で1件のみ不採択とした事業がある。理由としては、1つの地区に限定して行う事業であったことと、事業内容に公益性の乏しい部分があったため不採択とさせてもらった。</p>
委員	<p>市民提案型のような事業では、不採択になるようなケースは多くある。公益性が一番重要なポイントだと思う。広く公に利益があるようなものでなければ、公金を投入するのにふさわしくないと判断するしかない。場合によっては、部分的に減額をして採択をすることもある。最終的に市民に認められるようなものでなければならぬため、審査員はいろいろなことに気を使い審査をすることになる。</p>
	<p>地域自治協議会に対し、一括交付金化する場合に、ポイントは金額がどれくらいになるかということだと思う。一括交付金では、ある程度平等性が必要ということもあり、今割高でもらわれている地区にとっては一括交付金化がデメリットになる可能性もあるし、それ以外の地区にしてみたら、平等に財源を</p>

事務局	<p>割り振ってほしいという声も出るかもしれない。その辺りの展望も含め具体的な金額提示をしていかなければ、地域自治協議会の設立は実現しにくいのではないかと思う。</p> <p>近々行政内で、まちかどミーティングの内容やまちづくり審議会の審議内容を基にした調整会議を行う予定にしている。そこで一括交付金化をする場合の金額のことや、具体的な支援策などについても議論をしたいと考えている。また、平成28年度の予算要求が間もなく始まるので、それに向けて金額をまとめていきたいと考えている。事務局としてはどれくらいの金額があれば、ある程度自由に活動ができるのかを審議会も含め、意見を聞きたいと思っているが、期限が迫っているので、庁内調整である程度まとめたうえで予算に反映させていきたいと考えている。</p>
委員	<p>予算を立てていくにも、モデル地区などの予定もなかなかできないなか、要求をしていくのはとても難しいことなのではないか。</p>
事務局	<p>極力早い段階で、モデル地区になっていただけるような地区と協議する予定である。話が進められれば良いが、何分難しいことなので、できる限りということになる。何れかの地区がモデル地区になろうということになれば予算要求していくという流れになる。</p>
会長	<p>今の時点で金額などを明示していくということは難しいと思う。市の予算に絡むところであり、議会に上程して説明をし、正式に予算として公表するという流れになるだろうから、上手く連携を取りながら進めていく事が望ましい。答申書については、一括交付金として各地区に交付できるよう早急に制度設計に努めていただきたいというような表現であれば、我々として言えることなのかと思う。</p>
委員	<p>その他に、答申書に関することや補助金の在り方に関する事で御意見があればお伺いしたい。</p> <p>補助金の関連で、アンケートにあるプレゼンテーションの必要性についてという項目について、プレゼンテーションは必要だと思う。何をするのか公開された場で説明し、透明性を保ち、公金を投入するのにふさわしいかどうかを判断するために、最低限必要なことだと思う。</p>
会長	<p>補助金については税金が原資になっているため透明性を確保する事は何より大事な事だと思う。補助金を利用する団体にもそのことは良くわかってもらわなければならない。あとは見積りをしっかりとしてもらい、無駄な交付は避けるべきことか</p>

委員	<p>と思う。</p> <p>実際に審査をしている立場としては、点数を付けるところまでとはとてもできない。内容を説明してもらい、予算、見積りを聞き、質問に答えてもらったうえでふさわしいかそうでないかを判断することしかできない。地区まちづくり実践補助については経費等を見て減額をすることなどもあるが、市民活動に関してはなかなかそこまですることはできない。内容が適正で経費が対象経費であれば、頑張っていたきたい気持ちも込めて、採択ができるよう厳正な審査をしている。</p>
委員	<p>最大30万円の補助金であれば申請される方はほとんどが最大額で申請されるのではないか。</p>
委員	<p>申請額は皆さん根拠があって出されており、実際に実績報告で支出の内訳等を細かくチェックするので、無駄に交付していることもないし、有効に活用してもらっているので問題ないと考えている。</p>
委員	<p>団体によっては活動日数が少なかったり、内容的に展示をするだけの事業があったりするのではないか。そのような事業にも最大額の交付をするのはどうかと思うこともある。</p>
委員	<p>審査基準のなかに3つくらい共通の項目を入れてはどうか。どの団体にも必ず聞いて、どのレベルなのかを見極めるような項目があればわかり易いと思う。例えば活動の趣旨、目的がどれだけ明確でふさわしいものなのかといったことは基本になると思う。また事業を実施した結果どのような効果が得られるのかといったことも大切だと思う。</p>
事務局	<p>御指摘いただいたようなことは全て最初の提出書類である企画書に詳しく記入をしてもらい、それぞれの個票にまとめ、審査までに審査員には全て見てもらっている。公益性、公共性、発展性、必要性など必要な情報は審査会までに皆さんに確認してもらっている。それ以外での疑問点などを審査会で質問し詰めていくという流れになっている。</p>
会長	<p>審査については審査員に市民目線で厳正な判断をしてもらっているので、お任せして良いと思っている。特に内容については運用のなかで申請額を揃える必要もないので、各団体の実情に合わせて審査をしていただければと思う。答申に盛り込む部分は補助金の在り方についてということなので、制度的にどうしていくべきかというもっと基本の部分になるので、実情を一番把握されている審査部会で御議論をいただき、次回の審議会までに案をつくっていただけたらと思う。</p>
委員	<p>私たちは審議会の委員、またまちづくり審査部会の部会委員</p>

	<p>として市民を代表して、両補助金の審査役を仰せつかっているが、私は長年同じような事に関わらせてもらっている。これまでから審査の重要性、大変さを痛感している。地区まちづくり実践補助事業については本当に細かく基準を定めており、また地区単位が対象となるため比較的審査はしやすい。それでも細かく経費を確認し、意味を考え、色んな視点で見ていくことは大変な作業となっている。一方の市民提案型まちづくり事業についても、皆さんがおっしゃるような細かい基準設定をして、もっと詳しく突き詰めていくとなれば、私たちが審査をしていくということは、少し重荷になりすぎる。私たちは公平公正に市民の代表として審査に臨んでいるつもりだが、一般の方から見れば、少し穿った見方をされる方もある。何れにしても、地区まちづくり実践補助金は一括交付金化としていくことになると思うが、市民提案型まちづくり事業の審査は続いていくと思う。実際に審査をしている立場で言えば、利用する団体にとっての使いやすさも必要で、新しい力の芽を摘まないためにも極力最低限に近づけることも考える必要があると思う。</p>
<p>会 長</p> <p>委 員</p> <p>事 務 局</p>	<p>審査員に非常に重荷となっていることも良くわかる。時にはつらい判断もしていただくことになるので、受けていただいた方には申し訳ないと思っている。最終責任はこの審議会を持つこととなるので、外部からの矢は審査員個人に飛ばさないよう事務局でも上手く対応をしていただきたいと思います。</p> <p>(3) その他</p> <p>次回の審議会で今年度最終となるが、まちづくり活動審査部会の来年度の部会委員はどうして行く予定なのか</p> <p>まちづくり活動審査部会(審査会)は開催する必要があるが、部会のみで開催はできないため、何度か本会議を開く必要がある。できれば今の委員構成でまちづくり活動審査部会を継続させてほしいと思っている。</p> <p>委員には負担をお掛けするが前向きに御検討いただきたい。</p>
	<p>2 今後の予定について</p> <p>(1) 第5回審議会の日程について 平成28年2月頃に開催予定</p> <p>(2) まちづくり活動審査部会について 11月6日(金)に開催(後期申請の審査及び補助金の在り方についての会議)</p>
<p>問合せ先</p>	<p>都市経営部まちづくり課</p>